

小説

『ここでは言葉が死を招く』

嶋中 潤 著

金子由衣は、函館にある医療刑務所分院に勤める呼吸器外科医。多様化する外国人受刑者の治療に対し、言葉や文化の違いに不安はあるものの、担当医として通訳探しから自作の用語集などを頼りに目の前の命と向き合ってきた。暗中模索を続ける由衣の前で刑期を終えた元患者が撃たれ……。

趣味 実用

『奪還』

城内 康伸 著

第二次大戦後、朝鮮半島への植民地支配が終わり、難民と化した在留邦人たち。南部で引き揚げが進む一方、ソ連軍は北緯 38 度線を事実上、封鎖し南北間を遮断。敗戦により日本は国家としての主権を失い無力の状況下、最悪の惨状の北朝鮮に取り残された彼らを救出したのは名もなき男だった。

小説

『だめになった僕』

井上 荒野 著

信州で夫とペンション経営をしている漫画家・音村綾のサイン会が東京で開催される。酒に溺れ、荒んだ日々を送る画家の涼は、自分の再生への一縷の可能性に賭け、綾に会いに行くが——。男女の視点で現在から徐々に二人が初めて出会った過去へと時を遡って描く、狂気にも似た究極の恋愛小説。

趣味 実用

『パーフェクトな意思決定』

安藤 広大 著

頭がいい人がいつも正しいとは限らない。4400 社が導入している組織内の誤解や錯覚が、どのように生じ、どう解決出来るか明確にする「識学メソッド」を元に、正しさの先にあるしなやかな意思決定の方法を伝授する。「検討します」から卒業し、自分自身を助けるスキルを磨く 1 冊。

小説

『赤羽せんべろまねき猫』

坂井 希久子 著

立ち飲み屋を営む父が脳出血で倒れた。麻痺が残りそうな身体では再開は難しく、唯一の身内である娘の明日美は、折り合いが悪く連絡も絶っていた父の“後始末”のため渋々に店にやってきた。しかし店には 300 万の借金が!? けれど貸主は店が続く限り、返済は無期限と条件をつけ……。

趣味 実用

『図解江戸の間取り』

安藤 優一郎 著

「大名屋敷は贅を凝らした体験型施設」、「浅草寺は一大ショッピングセンター?!」現代東京の礎を築いた巨大城下町江戸の各建物の内部構造や周辺の俯瞰図を読み解き、当時の人々の暮らしとその魅力に迫る。今はなき天守や将軍の御殿、奉行所から牢獄、町人の住まいまで粋な間取りが満載です。

小説

『秘色の契り』

木下 昌輝 著

徳島藩蜂須賀家は岐路に立たされていた。藩主は飾り物に過ぎず、五家老のみが権力を持つ仕置が長らく続く藩の財政はひっ迫。今こそ英明な君主を迎え入れ、藩主直仕置を断行すべきと中堅家臣団が楯突いた! 新藩主となったのは強烈な個性を放つ蜂須賀重喜。彼の斬新な改革は藩を救うのか!?

趣味 実用

『わたしの農継ぎ』

高橋 久美子 著

引き継がれず荒廃していく故郷・愛媛の田園風景を少しでも守りたいと立ち上がった人気ロックバンドの元ドラマーだった筆者の奮闘記。地元で農家にバンド活動、東京で作家と二拠点生活をしながら辿り着いたのは、嫁ぐためではなく、風景や知恵、種を受け継ぐ新しい農のかたちだった——。

小説

『ピアノを尋ねて』

クオ・チャンシェン 著

天賦の才を誇るもピアニストへの道を諦めた調律師。音楽教室を運営する若い妻に先立たれた、音楽には頓着しない実業家。亡妻のピアノが二人を運命の地へ導く——。傷を抱えた男の孤独とクラシックの巨匠たちの孤高の人生とともに織りなす、台湾の主要文学賞を総なめにしたベストセラー。

趣味 実用

『なにわ介護男子』

宮川 大助・宮川 花子 著

血液のがん・多発性骨髄腫と診断された夫婦漫才コンビの花子さん。余命 1 週間との宣告を受けたが、そこは漫才師! きっと笑える日がくると治療に励み寛解。めでたしめでたしのはずが……。不屈に病と闘う花子と献身的に介護する相方である夫・大助の笑いとおに満ちた夫婦の人生劇場。